

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 13年10月

### ～貿易赤字は13年度末にかけてさらに拡大する可能性

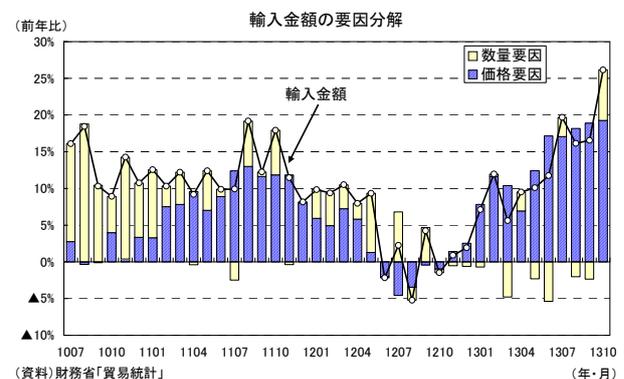
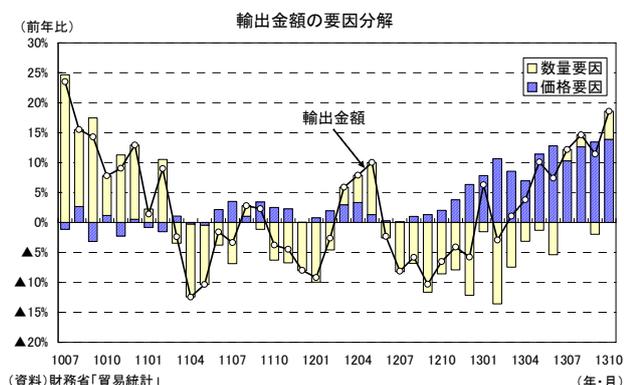
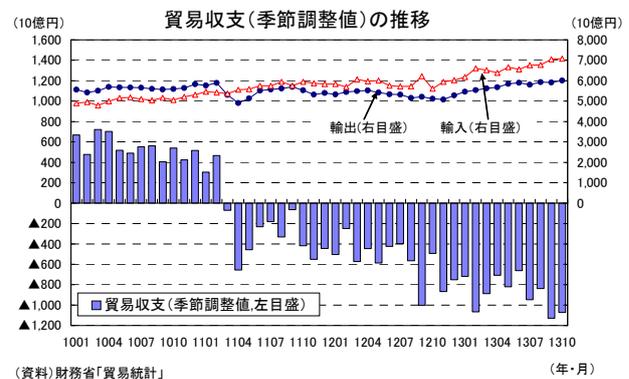
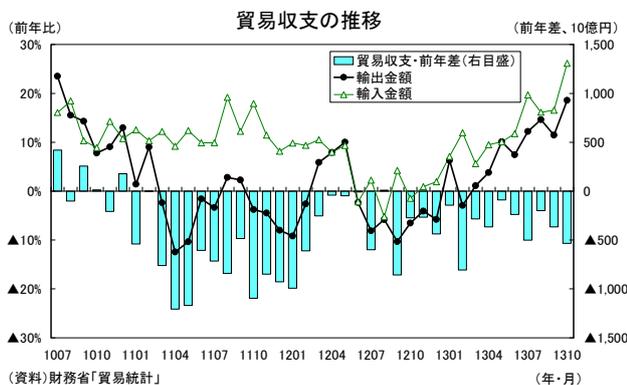
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 大幅な貿易赤字が続く

財務省が11月20日に公表した貿易統計によると、13年10月の貿易収支は▲10,907億円と16ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は事前の市場予想（QUICK集計：▲8,100億円、当社予想は▲9,032億円）を大きく上回った。輸出入ともに前月よりも伸びを高めたが、輸入の伸び（9月：前年比16.5%→10月：同26.1%）が輸出の伸び（9月：前年比11.5%→10月：同18.6%）を大きく上回り、貿易赤字は前年からほぼ倍増となった。ただし、輸入が前年比で極めて高い伸びとなったのは、昨年10月に環境税導入前の駆け込み需要の反動で原油輸入が大きく減少した裏が出た面があることには留意が必要だ。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比4.4%（9月：同▲1.8%）、輸出価格が前年比13.6%（9月：同13.6%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比6.3%（9月：同▲2.1%）、輸入価格が前年比18.6%（9月：同19.1%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲10,725億円の赤字となり、9月の▲11,280億円からは赤字幅が若干縮小した。輸出が前月比1.5%（9月：同▲0.3%）と2ヵ月ぶりの増加となり、輸入の伸び（前月比0.5%）を上回った。四半期ベースの貿易赤字は13年1-3月期の▲10.7兆円（季節調整済・年率換算値）から4-6月期には▲8.8兆円へと縮小したが、7-9月期は▲11.6兆円と再び拡大した。

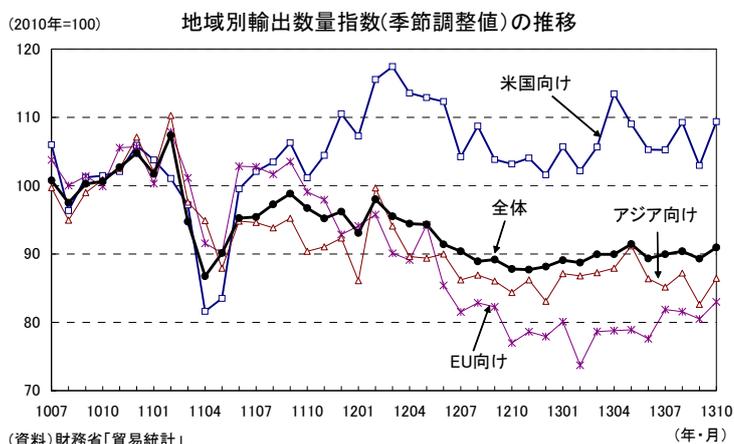
先行きについては、輸出は持ち直しに向かうものの、消費税率引き上げ前の駆け込み需要を主因として国内需要の伸びが高まることにより輸入の伸びが加速することが見込まれるため、13年度末にかけて貿易赤字はさらに拡大することが予想される。

## 2. 輸出は持ち直すも外需が景気の牽引役となることは期待できず

10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比5.3%（9月：同▲1.1%）、EU向けが前年比8.0%（9月：同▲2.1%）、アジア向けが前年比2.0%（9月：同▲4.0%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比6.2%（9月：同▲5.8%）、EU向けが同3.1%（9月：同▲1.3%）、アジア向けが同4.6%（9月：同▲5.2%）、全体では同1.9%（9月：同▲1.2%）であった。

10月がいずれの地域向けも高めの伸びとなったのは、9月の落ち込みの反動による部分もあるが、10月の指数水準を7-9月期平均と比較すると、米国向けが3.4%、EU向けが2.1%、アジア向けが1.7%、全体では1.2%高くなっており、輸出は全体として持ち直しに向かっていると判断される。



一方、輸入数量指数（季節調整値）は前月比0.6%（9月：同1.2%）と堅調を維持しており、10月の水準は7-9月期平均よりも1.2%高くなっている。

7-9月期のGDP統計では、輸出が前期比▲0.6%となり、外需寄与度が前期比▲0.5%と3四半期ぶりに成長率の押し下げ要因となった。10-12月期は、輸出は持ち直すものの、内需堅調を反映し輸入も増加を続けることから、現時点では外需寄与度は前期比でゼロ近傍になると予想している。引き続き外需が景気の牽引役となることは期待できないだろう。

なお、9月の経常収支は季節調整値で▲1,252億円と7ヵ月ぶりの赤字となったが、10月の貿易赤字（季節調整値）が前月から縮小したこと、円安を背景に高水準の所得収支黒字が維持されることから、現時点では10月の経常収支（季節調整値）は低水準ながらも黒字に戻ると予想している。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。